

- 管内 胆振管内
- 分類 避難訓練 危険対応能力 防災訓練 その他（防災マニュアル）
- 教育課程 教科（科） 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
- 校種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 噴火発生時対応マニュアルを活用した避難訓練の実施及び危険対応能力の向上
- 「防災キャンプ」への参加及び地域の備蓄庫見学を活用した危機管理の推進

取組の実際

ねらい

- 具体的な場面を想定したフローチャートを作成し、実際に災害が起きた場合に生徒が主体的に判断し行動できるようにするとともに、噴火発生時対応マニュアルを配付し、家庭との連携を図るなど、生徒の安全を確保する。
- 地域の行事や施設を活用し、生徒及び教職員の防災に対する危機管理の意識を高める。

内容

- 1 噴火発生時対応マニュアルを活用した避難訓練の実践及び危険対応能力の向上
具体的な場面を想定したフローチャートを校内に掲示し、生徒が自分の命を守るために、自ら判断し行動できるよう危険対応能力の向上に努めています。
また、各家庭にマニュアルを配付し、噴火発生時の学校と連携した対応について共通理解を図るよう努めています。



【噴火発生時対応マニュアル】



【設置されたヘルメット】

<生徒の声>

実際の噴火を想定して避難することで緊張感をもって取り組むことができた。

<保護者の声>

マニュアルの配付により、噴火発生時の学校や家庭での対応を知ることができた。

- 2 「防災キャンプ」への参加及び地域の備蓄庫見学を通じた危機管理の推進

「防災キャンプ」での避難生活体験やフィールドワークを行うとともに、地域の備蓄庫を見学するなど、災害時の実際の行動や自然の力の恐ろしさを体験することを通して、生徒及び教職員の防災に対する危機管理意識の向上に努めています。



【防災キャンプの様子】



【学校区の備蓄庫見学】

<生徒の声>

避難所生活や炊き出しなどを体験し、災害時の行動について考えることができた。

<教師の声>

学校が避難所になる場合の搬入物を確認し、災害時の対応を再確認することができた。

成果と課題

- 学校と家庭の連携を図り、防災意識を共有するとともに、具体的な場面を想定した避難訓練を行うなど、生徒の危機対応能力を高めることができた。
- 生徒自身が命を守るために主体的な行動が取れるよう、多様な場面を想定した避難訓練を継続的に実施するなど、危機管理体制の検証・改善を図る必要がある。